

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	30人	算数	30人	理科	30人
第5学年	国語	29人	算数	29人	理科	30人

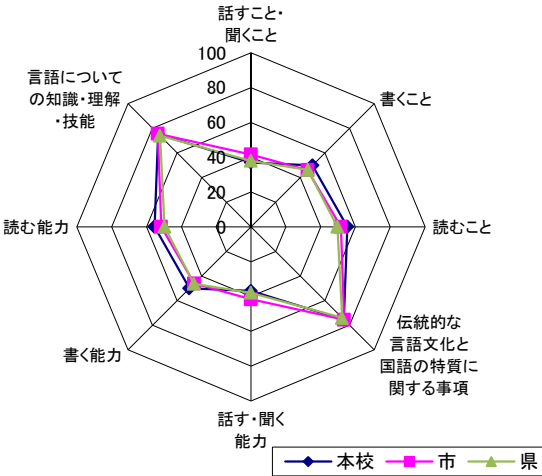
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	36.9	41.6	37.9
	書くこと	50.0	46.1	46.3
	読むこと	55.4	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	36.9	41.6	37.9
	書く能力	50.0	46.1	46.3
	読む能力	55.4	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	75.4	75.6	74.0



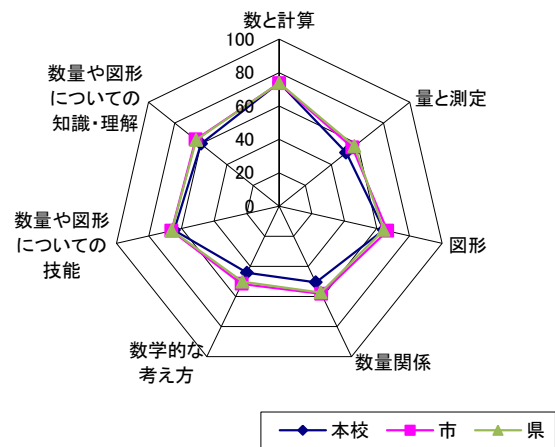
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○提案者の役割を理解し、話し合いに参加することができるかを問う問題では正答率が60.7パーセントと、県平均を1.1ポイント上回っている。 ●進行に沿った話し合いをすることができるかを問う問題では正答率が0パーセントであった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合いにおける司会の役割を確認し、これからの話し合い活動では司会の進行で進めるということをより意識させていく。
書くこと	○目的に応じて資料の見せ方を工夫することができるかを問う問題では正答率が75パーセントと、県平均を8.3ポイント上回っている。 ●資料と話し合いを基に、学級新聞に付け足す文を記述する問題では正答率が0パーセントであった。	・指定された条件に合った書き方で文を書くという経験を多くさせる。例えば、国語の学習に限らず算数や理科、社会の学習の中の振り返りで、授業のまとめを指定した言葉を用いて書くといった活動を取り入れていく。
読むこと	○中心となる語を捉えて読むことができるかを問う問題では正答率が78.6パーセントと、県平均を18.2ポイント上回っている。 ●叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことができるかを問う問題では正答率が71.4パーセントと、県平均を7.2ポイント下回っている。	・物語文を読む学習の際、直接的な表現で書かれてはいない、叙述から気持ちを想像できるような場面をしっかりと押さえていく。状況を正しく把握したり想像したりする力を養わせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ことわざの使い方を問う問題では正答率が92.9パーセントと、県平均を10ポイント上回っている。 ●主語と述語との関係を問う問題では正答率が60.7パーセントと、県平均を12.9ポイント下回っている。	・主に言語についての学習をするときに、主語や述語といった言葉の意味や基本的な文構造を反復して確認することで、意識付けをし定着させていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.0	73.6	73.7
	量と測定	51.4	56.2	57.7
	図形	64.3	66.5	64.2
	数量関係	50.7	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	44.3	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	64.6	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	59.8	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

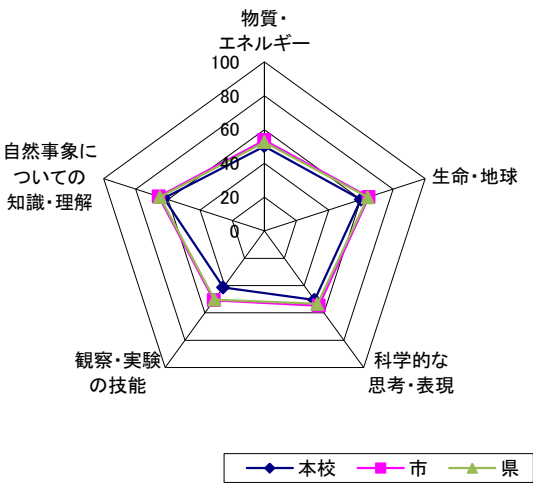
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数×2位数の計算をする問題では正答率が82.1パーセントと、県平均を11.3ポイント上回っている。 ●買い物の場面で、1つの式に表し、おつりを求める問題では正答率が17.9パーセントと、県平均を13ポイント下回っている。	・文章問題や図などを使って考える応用力が必要な問題については、初めから諦めてしまう傾向があるため、問題をよく読んで深く考えさせる習慣を身に付けさせたい。
量と測定	○教室にある黑板のおよその面積を推測する問題では正答率が53.6パーセントと、半数以上が面積の見当を付けることができています。 ●正方形のタイルの面積を求める問題では正答率が53.6パーセントと、県平均を10.2ポイント下回っている。	・面積の理解が不十分であると考えられるので、面積の公式を機械的に覚えるだけでなく、その公式の意味を考えながら理解させるような指導の工夫をしていく。
図形	○残りの1面を加えて、立方体の展開図を完成させる問題では正答率が89.3パーセントと、県平均を7ポイント上回っている。 ●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を答える問題では正答率が25パーセントと、県平均を5.8ポイント下回っている。	・図形の特徴や対角線の性質を一つ一つしっかりと理解させていくよう指導の工夫を図る。目で見ただけでなく、実際に作図するなどの体験的な活動を通して理解を深めさせたい。
数量関係	○2次元表を読み取り、対象の欄の表す意味を説明する問題では正答率が89.3パーセントと、県平均を7ポイント上回っている。 ●2つのグラフを比べ、発言が正しくないわけを説明する問題では正答率が14.3パーセントと、県平均を10.6ポイント下回っている。	・複数のグラフを比較し、「多い」「少ない」という数値だけではなく、それぞれの変化や関係性など詳しく読み取る力を身に付けさせたい。グラフの読み取りの観点を示したり、読み取ったことを整理して文章で説明する活動を取り入れたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.1	53.7	52.5
	生命・地球	60.0	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	50.6	54.7	53.4
	観察・実験の技能	41.4	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	62.5	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○電池の数やつなぎ方とモーターのまわり方を関係付ける問題では正答率が62.1パーセントと、県平均を12.3ポイント上回っている。 ○水から氷になるとき、体積が大きくなることが分かるかを問う問題では正答率が69パーセントと、県平均を11.2ポイント上回っている。 ●空気は熱せられると上方へ移動することが分かるかを問う問題では正答率が41.4パーセントと、県平均を23.1ポイント下回っている。 ●空気入れを押したときに水が噴き出す理由を考察する問題では正答率が48.3パーセントと、県平均を16.7ポイント下回っている。	・理科で学んだことを日常の様々な事象と関連付けて捉えることができるよう、折に触れて取り上げる。 ・考察や推測、理由を説明することが苦手な児童が多くみられるので、授業の中でも発言させたり、自分の言葉でまとめさせたりしながら理解を深めることができるようにする。
生命・地球	○金魚鉢に入っていた水が減った理由を説明する問題では正答率が79.3パーセントと、県平均を8.2ポイント上回っている。 ○月は1日のうち、東から西へ動くことが分かるかを問う問題では正答率が89.7パーセントと、ほぼ9割の児童が月の動きを理解している。 ●星座早見の持ち方や使い方が分かるかを問う問題では正答率が27.6パーセントと、県平均を14.2ポイント下回っている。 ●人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明する問題では正答率が31パーセントと、県平均を12.2ポイント下回っている。	・星座早見の使い方については全体として確認する必要がある。 ・根拠を明確にして自分の考えを書くことが苦手な児童が多いと考えられるので、日々の授業の中で自分の考えを表現する機会を増やしていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」という問いに対して肯定的な回答をしている児童の割合が96.6パーセントと、県平均を24.4ポイント上回っている。また、「理科の授業の中で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えている。」という問いに対して肯定的な回答をしている児童の割合は89.7パーセントと、県平均を21ポイント上回っている。このことから、本校児童は理科の学習に対して前向きな印象をもっていることが分かる。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」という問いに対して肯定的な回答をしている児童の割合が58.6パーセントと、県平均を13.3ポイント下回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という問いに対して肯定的な回答をしている児童の割合は48.3パーセントと半数以下である。このことから、本校児童は分からないことや分からないことを聞くことが恥ずかしいと捉えている割合が多いと考えられる。そのため、半数以上の児童が意見を発表することが苦手と感じているのではないかと。児童に分からないことは特別なことではなく、それを分かるようにしたりできるようにしたりすることが勉強なのだとすることを継続して指導していきたい。